



【2018-05-23】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、  
人生を味わう

今週の雑感

『外部者になにかを依頼  
する企業』

長野修二

## 外部者になにかを依頼する企業

---

コンサルタントなど、外部者になにかを依頼する企業の問題点は、  
为什么呢。

結論から言えば、他責です。

自分で責任を取らない企業（人ですが）が大半です。

これらの企業（人）は、最初から他人になにかを決めてもらえば、  
企業運営がうまくいくと考えています。

あるいは、当初から自ら責任を取らいためにコンサルタントなど  
を導入して物事に対応します。

このような企業の行きつく先は、さらなる経営環境の悪化です。

理由は、自ら企業経営を放棄しているのですから、まともな経営  
になるはずがありません。

実は、このような企業（経営職や管理職）が非常に多いのです。

このような経営職の下では、管理職も同様に責任を取りません。

一般従業員は、日々流動的なマネジメント（糸が切れた風状態）  
に翻弄されます。

企業全体のときもあれば、部門単位の場合も、課単位、あるいは  
上司単位の場合もあるでしょう。

自社に問題や課題がある場合、その解決の主体は、誰に依頼しよ  
うともその企業（人）です。

その自覚がない企業（人）は、話をするだけで体質は理解できま  
す。

判断するのは簡単です。

その企業（人）の責任の取り方（主体性）です。

責任を取る覚悟がある企業（人）は、他人の話をよく聞き、解決  
方法に納得すれば自らの責任で行動します。

それは鮮やかなものです。

きわめて少ないですが、確実に存在します。

改革途上、なんども思考錯誤の繰り返しになりますが、他人に責  
任を転嫁することはありません。

だからこそ改革は成功します。

所詮、外部の人間はある程度の示唆を与えることができるだけで  
す。

問題や課題の本質を掴み、抜本的に解決できるのは内部者であり、

その実行に覚悟と責任をもつものです。

このような覚悟なき人間が率いる組織は悲惨です。

常に経営は右往左往するからです。

政治の世界でも同じでしょうか。

テレビの映像は、その人間の覚悟と責任をあからさまに映しだします。

企業ではクローズドされた世界ですから、覚悟や責任なき人間の行動は埋没します。

いわゆるチェックが働きにくくなります。

それだけ企業がかかえる問題や課題の解決には、真（人間）のむずかしさがあります。

企業活動では、覚悟や責任なき人間がいる場合、その結果は不祥事や極端な業績悪化などまで露呈しません。

その点では、相当罪が深いと言わざるを得ません。

しかし、人間社会の信用は、その人間とは別の次元で作られる以上、止むを得ないことかも知れません。

私は、企業にアドバイスを求められますが、経営職や管理職の態度をみて仕事をするかどうか判断します。

断る覚悟で明確にアドバイスしますので、相手が困惑していることが多いでしょうか。

勿論、仕事をする機会はぐっと少なくなります。私にすれば当たり前なのです。

覚悟と責任がない人間に付き合っていることほど無駄なことはありません。

さらにそのような状況下、仕事を引き受けると、一般医従業員に過度の期待を抱かせてしまいます。

このことも罪を作ると分かったからです。

本来であれば、人間社会ほど面白さや楽しさがあるものはないと思いますが、反面、実にくだらないこと（保身）に付き合わされる世界でもあります。

覚悟や責任が取れない人間との仕事は、楽しさや面白さなき人生になります。

むしろこんなとき、わが家のわんこ散歩しているほうが、余程楽しくて素晴らしい人生を与えてもらえます。

人生とは、常に自分の責任で選択していくものではないかと、いまさらながら感じています。  
それを自分なりに実践できてきただけでも幸せかもわかりません。